

夏休みを安全に

水の事故をなくそう

危険な場所の点検を……

毎年、夏を迎えると、子供の水の事故が増えはじめ、夏休みを含む六月～八月の三か月間は、一年のうちでも水による犠牲者が最も多い時期です。

このような水の事故の約七割が、保護者（同伴者）がそばにいないときに起きています。この時期はとくに水遊びをする

ことが多いので、ふだんから子供の遊び場所を知っておき、危険な場所には行かせないようにするなど、保護者の配慮が必要です。そのほか、子供を水の事故から守るため、とくに次のようなことに注意しましょう。

▼家の近くに、ため池や用水堀など危険な状態のまま放置されているときは、警察に連絡するか、所有者や管理者に伝えて、サクヤフタなどをしてもらいましょう。

▼雨が降った後などは、川や用水堀の水位が上がっており、危険です。子供を近づけないように気をつけましょう。

▼水辺にいるときは、子供から目を離さないようにしましょう。



新造艇おおるり

昭和三十四年から、中禅寺湖の安全を守り続けている、日光署の警備艇「おおるり」の三代目新艇が、六月六日就航、この夏から活躍することになりました。

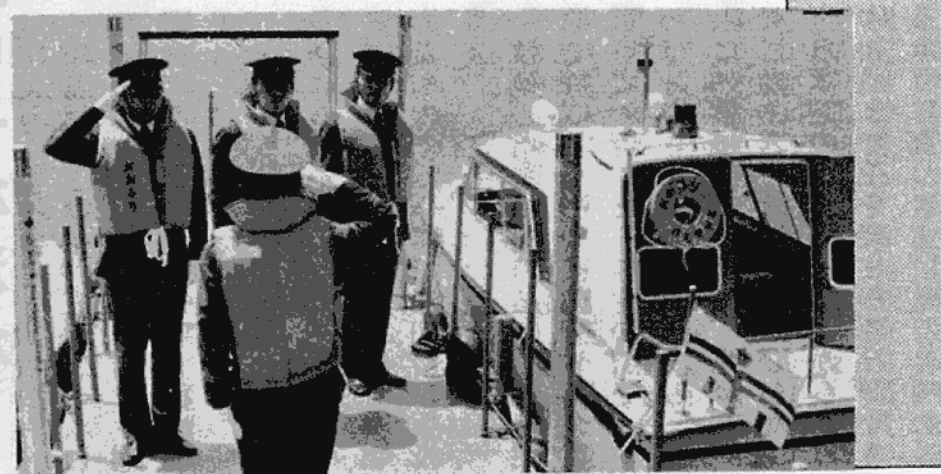
新しい「おおるり」は、定員九名で、全長五・九九メートル、幅二・三メートル、アイボリー色の強化プラスチック製のスマートな船体で、最大出力九十馬力。速力は、二代目より十キロ速い約六十キロ（三十二ノット）

新造警備艇「おおるり」

中禅寺湖の安全確保に就航

拡声機、探照灯、赤ランプ、サイレン、無線機などが装備されています。

六月六日は、湖上安全祈願祭と就航式を行い、早速湖上パトロールの任に着きました。これからのシーズンは、キャンプや船遊びなど、湖上が賑わい、それにともない事故が心配されますが、新おおるりは、紅葉シーズンの終る十一月まで、活躍することでしょう。



警備艇乗り込み



最近、各地で野犬の被害や犬の放し飼による事故が多発しています。なかには、野犬にかまれて死亡するといういたましい事故も発生しています。

このような事故は、飼い主のちょっとした注意で防げるものです。

七月一日から三十一日まで「正しい犬の飼い方強調月間」。この機会に、もう一度、正しい犬の飼い方について考えてみましょう。

▼犬の登録、狂犬病予防注射は、必ず受けましょう。

▼犬の放し飼いはやめましょう。

▼不用になった犬は、保健所へ届けましょう。

▼咬傷事故が起きたら、獣医師の検診を受け、保健所へ届けましょう。

▼犬鑑札、注射済票は必ず首輪につけておきましょう。

▼廃犬引き取りなど、詳しいことは市保健衛生課（☎四一〇一〇一）内線二四三へお問い合わせください。